

がきたる帷を用ふ、几帳の圖、類聚雜要抄卷四、几帳制度考など考て知べし。

〔紫式部日記〕九日夜は、九日産後第、こよひは、おもてくちきがたの木丁例のさまにて、略下

〔枕草子五〕なまめかしきもの

あをやかなるみすのえたより、くちきがたのあざやかに、ひもいとつや・かにてかゝりたる、ひものふきなびかされたるもおかし。

〔源氏物語二十〕あなた權の御とぶらひきこゆべかりけりとて、やがてすのこよりわたり給、くらう

なりたる程なれど、にび色のみすにくろきみ木帳のすきかげ哀に、略下

〔源氏物語二十三〕空蟬のあま衣にも、さしのぞきたまへり、略中、あをにびの木帳、心ばへおかしき

に、いたくゐかくれて、袖ぐち計ぞいろことなるまもなつかしければ、略下

〔左經記〕萬壽五年元長元 四月一日丙寅、御几帳帷六帖、略中、並御帖等、青鈍、略、令調獻宮、日來朽木

〔長秋記〕長承三年十二月四日己卯、御出家後、御几帳帷用青鈍、然而今度依爲吉事、被用朽木形、是下

官之所申行也、自餘所々鋪設裝束如例、

〔龜山院御凶事記〕嘉元三年九月廿六日庚午、今日改御所御裝束、略中、昭訓門院御聽聞所、并女房聽

聞所等、悉御簾今日不出之、出鈍色几帳帷、同色紐、抑女院明日廿七日可有著服、仍其以前只不懸几

几丁不可更衣、今月出、生几丁者、雖及冬不可改也、然而今度自然、運々十月一日出之間、可用冬几丁也、

〔兵範記〕仁平三年六月十五日癸酉、略中、今日出御堂丈六佛前、被始行阿彌陀講、略中、北又庇御所垂

御簾出、香染御几帳候、

〔類聚雜要抄四〕四尺几帳

帷長六尺、紐長帷定、幅料一疋、裏紐長三尺

〔類聚雜要抄四〕四尺几帳九本

几帳種類